

○平成29年度教育事業

「海の子 山を知る」(H29.9.23(土)～24(日))



平成29年度国立大雪青少年交流の家教育事業

海の子 山を知る

平成29年9月23日(土)
～24日(日)

会場：国立大雪青少年交流の家・十勝岳
旭川市科学館サイバル

参加対象：小学校3年生～6年生
参加費用：3,000円

※裏面もご覧ください。

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taisetsu Youth Friendship Center

〒071-0235 北海道上川郡藤崎町白金温泉
TEL:0166-94-3121 FAX:0166-94-3223
e-mail taisetsu-suishinaitsu@niye.go.jp
担当：安藤・村澤

◆目的

海辺で生活している子供たちが、北海道の内陸に位置する大雪青少年交流の家周辺のフィールドを活用した山岳型の体験活動を通して、地域の特色や差異を肌で感じる場とするとともに、自分の住む地域の良さを再確認する機会とする。

また、道内各地へ体験活動を普及していくに当たり、遠方に位置し、交流の家を利用する機会の少ない市町村と連携し、子供達に体験活動を提供する方法について検討する機会とする。

◆参加実績(募集30名)

参加：8名

内訳：小学3年生4名(男子4名)

小学6年生4名(男子2名

女子2名)

◆プログラム

①登山(望岳台～避難小屋コース)

望岳台から避難小屋までの登山を行った。

避難小屋では、「山のティータイム」と称して、ガスバーナーでお湯をわかし、温かい飲みものとお菓子を味わった。



②旭川市科学館サイパルの見学

科学展示物の見学及び、アトラクション、プラネタリウムを体験した。参加者は、無重力体験や、科学に関する、仮想のクイズ番組への参加など、多くのアトラクションに興味をもち、楽しんで活動することができた。



◆成果

日頃から海辺で生活する子どもたちにとって、登山を楽しみ、山の地形や植生などについて知る機会とともに、自分たちの住む海辺との環境の違いについても体験を通して実感する機会となった。

また、道内各地に体験活動を普及・促進するに当たり、市町村教委と連携し、共催による教育事業の実施などの方向性を得ることができた。

◆参加者の声

○山のぼりをしたら、上の方が寒く感じてびっくりした。

○いろいろなことをできて勉強になって楽しかった。

○登山で、こやでココアをのんで楽しかった！あと、山だといろいろな生物がいるとわかった。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

○山に馴染みのない子供たちにとって、大きな山を登る体験は、興味を引くとともに、感動や気づきを得る機会となった。

○登山のゴールを、明確な目標物のない雲ノ平から避難小屋へと変更したが、目標を明確に定めてアナウンスしながらの登山は、参加者にとっても見通しのもてる活動となった。

○天候悪化によりスケジュールを早めたため、参加者にガスバーナーでお湯を沸かすといった体験を提供できなかった。

○夜の活動は、子どもたちの交流の時間に多く時間を費やしたが、登山活動を振り返って自分たちの住む地域とのちがいについて考えさせる活動も取り入れるとよかった。

○科学館サイパルでの活動では、山について学習できる部分をクローズアップできるとよかった。

○本事業を契機に、留萌市・小平町を始めとする様々な市町村教育委員会との連携強化に努め、交流の家の周辺フィールドを活用した事業企画への助言・支援を行っていく。より多くの参加者を募るため、各市町村教育委員会と連絡を取り、地域の子供たちが事業に参加しやすい時期の把握に努め、開催日を設定できるようにしたい。

◆事業運営予算	合計	31,718円
職員旅費	4名	21,150円
ボランティア旅費	1名	3,740円
通信運搬費		6,823円